

はしがき

日本言語学会第153回大会が、2016年12月3日（土）と4日（日）の両日、福岡大学で開催されることになりました。学会ホームページの「過去の大会一覧」によると、本学会の大会が九州で開催されるのは2012年の145回大会に続いて今回で5回目（過去の4大会はいずれも九州大学）、福岡大学では初めての開催となります。会場の手配など周到な準備をしてくださった大会実行委員長の江口正先生はじめ開催校の皆様に心より御礼を申し上げます。また、佐々木冠委員長を中心に発表選考・プログラム作り等の大会準備をしてくださった大会運営委員会の方々と、大会発表賞の選考・審査にあられる発表賞選考部会および審査員の皆様に感謝いたします。

今大会では1日目に口頭発表（計56件）があり、2日目は午前にワークショップ（5件）とポスター発表（2件）、午後は公開シンポジウムが開催されます。大会全体で約100名の会員が日頃の研究成果を発表される予定です。毎年秋の大会は春の大会より発表申し込みが多い傾向がありますが、今回は合計121件（口頭発表111件、ポスター発表4件、ワークショップ6件）という記録的な応募数でした。大会での活発な議論を期待しています。

日曜日午後の公開シンポジウムは「方言研究から言語研究へ」と題して、4名の講師が文法・意味構造を中心に、日本語の方言研究と一般言語学との関係を論じられます。一方では日本語の方言研究が進み、他方では日本語からの国際発信が求められている今日、非常にタイムリーなテーマだと思われます。また公開シンポジウムに先だって、学会賞（大会発表賞、論文賞）の授賞式も企画されています。

今年度始まった新事業として、予稿集の電子版が学会ホームページに公開されています。これにより誰でも事前に発表内容を読むことができるようになりました。また大会後も半永久的に読むことができます。海外からも自由にアクセスできますので、日本の言語研究の成果が広く海外に発信されるのではないかと期待しています。なお今大会までは紙媒体の予稿集も発行されますが、来年度からは電子版だけの予稿集になりますので、事前にダウンロードあるいは印刷してご利用ください。

今年度始まったもう一つの事業がクレジットカードによる会費の納入です。すでに全会員の約20%の方々が利用されています（学会ホームページの会員用ログインページに入ると利用できます）。今後さらに利用が増えて、会費納入率の上昇につながることを期待しています。

次回第154回大会は、2017年6月24日（土）と25日（日）の両日、首都大学東京（東京都八王子市）で開催される予定です。

2016年12月

日本言語学会長 窪菌 晴夫